

## 北海道大好き！～アイヌ語ゆかりの「北海道の地名」(第2回)

当社は、白老町で開設を予定しているアイヌ文化復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間(愛称:ウポポイ)」の「交流促進官民応援ネットワーク」に参画しています。

先住民が使っていたアイヌ語を起源とした地名が多く残る我らのふるさと北海道。北海道で使う電気を生み出している発電所所在地の地名などについて、その由来をご紹介します。どうぞお楽しみに。

第2回目は、当社唯一の地熱発電所がある、道南の森町濁川です。

### 濁川(ニゴリカワ)

函館から国道5号線を北上し、森町を過ぎ、石倉漁港の手前を左折して山側にしばらく進むと、濁川(にごりかわ)地区に出ます。

森町濁川は、太古の昔、火山の噴火でできたカルデラ地形を成す濁川盆地にあります。



森地熱発電所

ここは江戸時代から湯治場として利用されたところで、現在でも6つの温泉が点在しています。

この濁川盆地の高台に当社の森地熱発電所があります。

地熱発電とは、地下のマグマによって熱せられた高圧熱水(蒸気)を地上に導き、その蒸気でタービンを駆動して発電を行うもので、地熱エネルギーを使うため、クリーンな再生可能エネルギーです。

当社唯一、また国内8番目の地熱発電所として、1982(昭和57)年から運転を開始しました。出力は25,000kW。当社はこの地熱のほか、太陽光発電や風力発電など、再生可能エネルギーの利用拡大を積極的に進めているところです。

さて、温泉名のもとになった「濁川」は、この地域を流れる川の名前で、アイヌ語ではユー・ウン・ペツ(yu-un-pet 温泉・の・川)と呼ばれていました。まさに温泉がこの地に根付いていることを象徴していますね。

(出典:山田秀三「北海道の地名」)